

問1 日本の工業構造の変化について、1970年と比較した2010年の製造品出荷額の割合の特徴を説明した文として、適切なものはどれですか。

(2014年 愛媛県公立入試 類似)

- | | | | |
|---|--|--|---|
| 1. 石油化学製品などを製造する化学工業が、資源価格の上昇に伴い製造品出荷額において最も大きなシェアを占めている。 | 2. 鉄鋼や非鉄金属などの素材を供給する金属工業が、製造品出荷額の過半数を占める最大の産業となっている。 | 3. 明治時代から日本の輸出を支えてきた繊維工業が、2010年時点でも製造品出荷額の首位を維持している。 | 4. 自動車や電気機器、精密機械などの製造を含む機械工業の割合が、全体の約44.6パーセントと突出して高くなっている。 |
|---|--|--|---|

問2 1990年から2020年にかけての日本の人口構成と自動車生産の動向について述べた文として、正しいものはどれですか。なお、この期間の統計指標では、2000年を100とした場合、65歳以上の人口指数は上昇し続け、15歳から64歳の現役世代の指数は低下しています。また、自動車の生産についても、国内生産の指数が停滞する一方で、海外での生産指数は大幅に上昇しています。

(2024年 長崎県公立入試 類似)

- | | | | |
|---|---|--|--|
| 1. 少子高齢化によって国内市場の縮小や労働力不足が懸念される中、自動車メーカーは需要のある地域での現地生産を進め、海外生産台数を増加させている。 | 2. 若年層の人口が増加して国内市場が活発になったため、自動車の国内生産台数が海外生産台数を大きく上回るペースで成長している。 | 3. 高齢者人口の増加にともなって国内の自動車需要が急増したため、メーカーは海外拠点を日本国内へ移転させ、国内生産台数を大幅に伸ばしている。 | 4. 生産年齢人口が急増したことで安価な労働力が確保できるようになり、海外に展開していた生産拠点をすべて国内に集約させる動きが強まっている。 |
|---|---|--|--|

問3 製造品出荷額の構成において、機械工業が約36.5%、化学工業が約20.7%、金属工業が約18.7%を占める工業地域を選択肢から選びなさい。この地域は、沿岸部に大規模な石油化学コンビナートが形成されていることで知られています。

(2019年 山口県公立入試 類似)

- | | | | |
|-----------|------------|------------|-----------|
| 1. 阪神工業地帯 | 2. 瀬戸内工業地域 | 3. 北九州工業地域 | 4. 中京工業地帯 |
|-----------|------------|------------|-----------|

問4 施設園芸農業において、冬から春にかけて野菜の出荷を早める「促成栽培」を行う主な目的として、最も適切な理由はどれか。

秋田県公立入試 類似)

- | | | | |
|--|--|---|--|
| 1. 施設を利用することで肥料の使用量を抑え、環境負荷を軽減した農業を推進するため。 | 2. 他の産地の出荷が少ない時期に供給することで、市場での価格が高い状態での販売を狙うため。 | 3. 自然の降水に頼らずに栽培することで、作物の水分量を減らし保存期間を長くするため。 | 4. 収穫後に農地を焼くことで、害虫の発生を防ぎながら土壌の養分を補給するため。 |
|--|--|---|--|

問5 日本の三大工業地帯の一つで、東京都から神奈川県の大東京湾に面した臨海部を中心に広がる工業地帯を何と呼びますか。最も適切なものを次の中から選びなさい。

(2020年 岐阜県公立入試 類似)

- | | | | |
|------------|-----------|-----------|-----------|
| 1. 北関東工業地域 | 2. 京葉工業地域 | 3. 京浜工業地帯 | 4. 中京工業地帯 |
|------------|-----------|-----------|-----------|

問6 愛知県の渥美半島や沖縄県などで盛んな菊の栽培では、夜間に電灯で光を当てる工夫がなされています。菊には日照時間が短くなると花芽が形成されて開花する性質がありますが、あえて夜間に光を当てることでどのような効果を狙っていますか。

(2019年 徳島県公立入試 類似)

- | | | | |
|-------------------------------|--------------------------------|---------------------------------|---------------------------------|
| 1. 夜間に活動する害虫を光で引き寄せ、効率的に駆除を行う | 2. 光合成を促進させることで、開花の時期を通常よりも早める | 3. 日照時間が長いと錯覚させて、開花の時期を意図的に遅らせる | 4. 電灯の熱を利用して周囲の気温を上げ、冬の寒さから菊を守る |
|-------------------------------|--------------------------------|---------------------------------|---------------------------------|

問7 京葉工業地域の工業出荷額において、化学工業の割合が四割を超え、他の工業地域と比較しても非常に高い水準にある理由として最も適切な説明を選びなさい。

(2022年 山口県公立入試 類似)

- | | | | |
|---|--|--|---|
| 1. 広大な臨海埋め立て地を利用して、原料の輸入に便利な港湾施設が整備されており、鉄鋼や化学製品などの製造が中心だから | 2. 都市部での公害問題を解決するために、都心に分散していた小規模な化学工場を郊外の丘陵地帯へ一斉に移転させたため。 | 3. 首都圏という巨大な消費地に近い利点を生かし、自動車の組み立てや電子部品を製造する機械工業の工場を優先的に誘致したため。 | 4. 内陸部の豊かな水資源や伝統的な技術を活用し、古くから繊維工業や食料品工業を中心とした産業構造が築かれてきたため。 |
|---|--|--|---|

問8 現代の日本において、福岡市のような大都市圏では第3次産業に従事する人の割合が高くなっています。都市部において、農村部と比較して第3次産業が発達する理由として最も適切な説明はどれですか。

(2016年 岡山県公立入試 類似)

- | | | | |
|---|---|--|--|
| 1. 原料の輸入に便利な港湾施設が整備されており、鉄鋼や化学製品などの製造が中心だから | 2. 自然環境を活かした観光資源が豊富であり、キャンプ場や林業の経営が主な収益源だから | 3. 人口が密集しており、多様な生活を支える小売業やサービス業への需要が非常に大きいため | 4. 平坦で広い土地を確保しやすいため、大規模な機械化農業を行う環境が整っているため |
|---|---|--|--|

問9 日本の肉用牛飼育において、飼養戸数が減少している一方で、農家一戸あたりの飼養頭数は増加傾向にあります。このような変化が示している農家の取り組みの説明として、最も適切なものはどれですか。

(2026年 宮崎県公立入試 類似)

- | | | | |
|-----------------------------------|---------------------------------------|-----------------------------------|----------------------------------|
| 1. 地元の消費者に直接販売する地産地消の取り組みを強化している。 | 2. 一戸あたりの経営の規模を大きくすることで、生産性の向上を図っている。 | 3. 外国への農産物の輸出量を大きく増やすための対策を進めている。 | 4. 未利用の空き地を耕作放棄地にならないよう農地に変えている。 |
|-----------------------------------|---------------------------------------|-----------------------------------|----------------------------------|

問10 1960年ごろの日本では、高度経済成長にともなう電力需要の急増に対応するため、エネルギー源の転換が行われました。それまで日本の発電の主役であった水力発電に代わり、火力発電が主流となった背景として最も適切な説明はどれですか。

(2021年 島根県公立入試 類似)

- | | | | |
|--|--|--|--|
| 1. 二酸化炭素の排出量を削減するために、化石燃料に頼らない発電方式として石油を利用した火力発電が国策で推進されたため。 | 2. 石炭から石油へのエネルギー革命が進み、大消費地である都市や工業地帯の近くに大規模な発電所を建設できるようになったため。 | 3. 大規模なダム建設に適した場所が国内に無くなったため、内陸部を中心に小規模な火力発電所を分散して設置する方針をとったため | 4. 第一次石油危機の発生を受けて石油価格が高騰したため、国内で自給可能な石炭を燃料とする火力発電への切り替えを急いだため。 |
|--|--|--|--|

問11 日本の畜産物(牛肉、豚肉、鶏肉)の生産において、その多くはトウモロコシなどの「濃厚飼料」に依存しています。豚や鶏の飼育ではその使用割合が100%に達しますが、この濃厚飼料の国内自給率は約12%にとどまっています。この状況が日本の食料自給率に与える影響として、最も適切な説明はどれですか。

(2023年 福井県公立入試 類似)

- | | | | |
|---|---|---|---|
| 1. 日本ではトウモロコシの国内生産が急拡大しているため、濃厚飼料の自給率の低さはすでに解決されつつある。 | 2. 豚や鶏は牧草などの「粗飼料」を主に食べて育つため、輸入トウモロコシの自給率の低さは食料自給率にはほとんど影響しない。 | 3. 飼料の多くを輸入に頼っているため、国内で飼育された食肉であっても、自給率の計算上は輸入飼料分が反映され、数値が低くなる。 | 4. 国内で飼育されていれば、飼料の産地に関わらず食料自給率は100%として計算されるため、畜産は自給率向上に大きく貢献している。 |
|---|---|---|---|